

2003. ; 2) 横山悦生: 手工科成立過程期における日本とスウェーデンとの教育交流. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学), 50 (2), 2004.

手工教育 英 handicraft education, sloyd, スウェーデン語 slöjd

子どもに手わざを教えること。また学校教育におけるそのための教科。いずれの国、地域でも子どもの玩具の製作、簡単な工具の使用を含む手わざを教えることは行われてきた。北欧諸国、特にスウェーデンのスロイドは著名である。19世紀に入り各国で近代的な学校が整備される過程で、手工は小学校の教科として取り入れられた。通常は、*職業教育としてではなく、子どもの心身の成長、発達を促す普通教育科目として位置づけられる。日本では、1886(明治19)年に小学校の随意科目として「手工」が誕生し、若干の変遷を経て1926年に小学校高等科では必修とされた。1941年の国民学校令では必修の工作とされ、第2次世界大戦後は小学校では「図画」と合体した「図画工作」に、中学校では「工作」の領域が「技術」科に継承された。子どもの成長発達、実生活とのつながり、生産(ものづくり)の基礎、*労働の尊厳などの点で重要視されてきた教科ではあるが、高等学校には中学校の「技術」科に続く教科がないなど、位置づけは不安定である。他面、*児童館などの地域の施設や子ども祭りのような行事で注目されるなど、新たな広がりをみせている。

(横山悦生)

〔文献〕1) 宮崎擴道: 創始期の手工教育実践史, 風間書房,